

令和2年度（第9期）

事業報告書

（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

1. 事業概要
2. 助成事業
3. その他の事業

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団

## 1. 事業概要

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団は、令和2年4月1日（水）に公益財団法人として9年目を迎え、本財団の公益目的事業である日本と韓国に関わる文化・芸術・歴史・社会・スポーツ等の分野における学術研究、創作活動、啓蒙活動、実践活動への助成、そのほか日本と韓国に関わる国際交流等に対し、助成を行なうことになっています。

令和2年3月11日（水）に開かれた令和元年度第3回理事会でご承認いただきました第9期事業計画案に基づいて、第9期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）の助成事業を実施しました。

## 2. 助成事業

### (1) 令和2年度の応募状況と選考委員会

今年度も郵送による「郵便申請」の受付のほかに、本財団ホームページから直接申請できる「電子申請」を併用しました。令和2年7月1日（水）から助成申請書の募集を始め、8月31日（月）に締め切った結果、59件の助成申請書を受け付けました。59件の申請書のうち、事務局の事前審査で約半数を落とし、選考委員会の本番に向けて審査対象となったのは40件の申請書でした。

この後、選考委員5名が40件の申請書を約1カ月かけて精査し、10月24日（土）開催の選考委員会に臨みました。当日、選考委員会は10時に開会し18時30分まで議論を続け、助成対象候補者を10件まで絞り込みました。

平成29年度から面接を重視しており、10月31日（土）、11月1日（日）の2日間で10件の申請者の面接を実施しました。

その結果、令和2年度選考委員会は、個人2件、団体2件を助成対象候補と選出しました。

なお、令和2年度は選考委員会からも理事長からも、韓昌祐特別助成（上限500万円）の推薦は上がりませんでした。

公益財団法人韓昌祐・哲文化財団

～ 令和2年度 選考委員 一覧 ～

鄭 大均 氏                      東京都立大学名誉 教授                      (選考委員長)  
(テイ・タイキン)

高柳 俊男 氏                      法政大学国際文化学部 教授  
(タカヤナギ・トシオ)

金 時文 氏                      (株) 東洋経済日報社 編集局長  
(キム・シムン)

洪 熒 氏                      (株) 統一日報社 論説主幹  
(ホン・ヒョン)

五味 洋治 氏                      東京新聞 論説委員  
(ゴミ・ヨウジ)

## 令和2年度 選考委員会・理事会の結果報告

### ～ 助成受贈者一覧 ～

分野	名前	研究活動テーマ・所属	
環境	香坂玲 (ヨウカ・レイ)	「伝統野菜の学び合いから日韓の世代を超えた文化・環境の相互理解へ」 一般社団法人 グローカル教育センター 代表 名古屋大学大学院 環境学研究科 教授	1,500,000 円
文化交流	小坂智子 (コサカ・チコ)	「日韓美術館協働によるオンライン・アクティブラーニング活動に基づく芸術文化交流と次世代交流の人材育成」 日韓文化交流事業実行委員会 委員長 長崎県美術館 館長	1,500,000 円
映画	李泳坤 (イ・ヨンゴン)	「福士敬章のドキュメンタリー映画『玄界灘の落ち葉』制作」 ドキュメンタリー映画監督	1,500,000 円
出版	横内裕人 (ヨウチ・ヒロト)	「長崎県対馬に伝来した朝鮮渡来経巻の悉皆目録刊行」 京都府立大学 文学部歴史学科 教授 元・文化庁文化財部 文化財調査官	1,500,000 円
個人2件・団体2件			総額 6,000,000 円

## (2) 公募の方法について

令和 2 年度の公募広告は 7 月上旬から 8 月中旬に、新聞媒体の統一日報、東洋経済日報に公募広告を掲載しました。

またネット・メディアでは、(株) ジェイ・キャストの Jcast ニュースに、公募広告をアップしたほか、平成 28 年度と平成 30 年度の助成受贈者をニュース記事として Jcast トレンドニュースに配信しました。

そのほかに、国公立大学、私立大学、日韓に関わる研究機関、諸団体に財団のパンフレットを 1400 部配布しました。

## 3. その他の事業

### (1) 助成証書授与式

毎年 3 月に開催されてきた本財団の助成証書授与式は、日韓に関わる助成受贈者の発表の場であり、また駐日大韓民国大使館の大使をはじめ日韓親善協会中央会会長、在日本大韓民国民団中央本部団長および民団幹部、在日世界韓人商工人連合会会長や幹部の方々が出席される、日韓両国をつなぐ各界有識者の日韓交流の場になっています。

しかし、令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、出席者を 50 名に限定し、3 月 11 日（水）に韓国文化院（東京都新宿区四谷）2 階のハンマダンホールにて開催しました。

### (2) 日韓交流レセプション

本財団の助成証書授与式、記念講演会の後、恒例となった日韓交流レセプションが毎年 3 月に開催されてきました。

このレセプションには過去に助成を受けた（財）韓哲文化財団時代の助成受贈者のみなさん、また日韓に関わっている諸団体の方々が参加され、日韓をテーマに分野の垣根を越えて交流してきました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、立食パーティ形式の日韓交流レセプションは行ないませんでした。

## 令和2年度の事業報告附属明細書

1	給料手当	7,999,740 円
2	アルバイト給与	19,170 円
3	法定福利費	1,146,004 円
4	会議費	61,826 円
5	接待交際費	0 円
6	旅費交通費	343,072 円
7	通信運搬費	158,193 円
8	減価償却費	453,600 円
9	消耗品費	51,182 円
10	公募関係費	6,740,491 円
11	貸借料	327,500 円
12	諸謝金	1,380,998 円
13	図書費	36,752 円
14	助成金	6,00,000 円
15	雑費	1,500 円
16	研修費	0 円
17	手数料	39,210 円
	事業費総額	24,759,238 円

## 事業報告附属明細書の内訳

- 1 給料手当（専務理事と職員の報酬全体の3分の2）
- 2 アルバイト給与（公募の準備）
- 3 法定福利費（健康保険料、厚生年金保険料、子ども子育て拠出金）
- 4 会議費（選考委員会、財団ミーティング、ネット『青鶴』等）
- 5 接待交際費（理事会・評議員会）
- 6 旅費交通費（助成事業の調査と検証、選考委員、助成対象者面接等）
- 7 通信運搬費（公募関係、広報宣伝、事務局等）
- 8 減価償却費（事務局）
- 9 消耗品費（事務局）
- 10 公募関係費
  - ・助成証書授与式（(有)劇団青年座、(有)ソラ、韓国・Kim Joung Hyun 等）
  - ・広告費（(株)ジェイ・キャスト、(株)トエンタ、(株)東洋経済日報、大石デザイン事務所、(株)ページワン）
- 11 貸借料（(株)マルハン）
- 12 諸謝金（理事、監事、評議員、選考委員、評議員選定委員）
- 13 図書費（事務局）
- 14 助成金（一般助成）

15 研修費（事務局）

16 手数料（司法書士・落合幸造氏、アイワーズ・芦田正裕氏）